

本日の
プログラム

小さな豆屋の反逆 池田光司 会員

新会員卓話 野地秀一 会員

令和2年11月入会の野地秀一と申します。現在厚別区で食品スーパーを中心に不動産賃貸業、外食等を営んでおります。入会后、コロナ禍でなかなか参加することが出来ず申し訳ございません。

まず当方の自己紹介から。昭和43年に札幌市で出生し、今年で54歳になります。なかなか人間的に成長できずにここまで来てしまった印象です。高校まで札幌で過ごした後、大学は東京に行きました。かなり厳しい大学で、特に卒業研究が大変でして連日0時過ぎまでの研究。ほぼ8割方が大学院に進む中、研究室でただ一人文系就職し、北海道拓殖銀行に入行しました。勤務地はそのまま東京になりました。ご承知の通り、入行後丸6年で拓銀は破綻。家業である(株)ホクノーに入社して現在に至ります。

拓銀は結局破綻しましたが、本当に濃密な経験をさせて頂いたと今でも感謝しております。特に破綻に至るまで、マーケット畑にいたことでなかなか経験できない体験をできたと思っております。当時の資金繰りの厳しさを目の前で見ておりましたので、その経験は現在の企業経営にも生きています。また、優秀な仲間は破綻後もいいポジションを得て現在も各方面で活躍しております。素晴らしい人的なネットワークを得られたと思っております。まさに人生の財産です。

食品スーパーに戻ってからは、一回り修行の後、2009年に代表取締役就任しました。2000年に大店法が廃止になってから、大型店がどんどん進出するようになり、一方でデフレ下で売上

はなかなか増えず、効率的には厳しくなってきました。また、最低賃金の度重なる大幅な引き上げもダメージが大きくなってきています。できるだけ変化に対応すべく取り組んでおります。その一環として、食を提供する企業の責任として「健康ステーション」を開設しました。人間のエネルギー源は「食」でしか得られない訳ですから、アウトプットとしての「健康」にも大きくかかわって来る筈です。そしてその健康を達成するには、適度な運動だと考えました。来店されるお客様に健康で永く来店していただきたい。買い物ついでに立ち寄って貰い、軽運動をしてもらうコンセプトです。コロナ禍前は1日130人程度の利用がありましたが、現在は午前中のみ人数を絞っておりますが、継続して開設しております。地域の皆様の健康にどれだけ貢献できたかはわかりませんが、引き続き運営していきたいと思っております。

なかなか参加できませんでしたが、歴史と伝統のある札幌東ロータリークラブの一員として邁進して参る所存です。奉仕の理念の実践。まずは自企業が健全であることが前提であると思っておりますので「ゴーイングコンサーン」を旨として運営するとともに、地域住民や仲間の特に健康面で、心と体の健康が保たれるように奉仕をして参りたいと存じます。新入会卓話が大変遅れましたことを深くお詫び申し上げますとともに、これから何卒よろしく願い申し上げます。



■本日のロータリーソング
それぞろロータリー

2021~2022年度 国際ロータリーのテーマ
「奉仕しようみんなの人生を豊かにするために」
国際ロータリー会長：シエカール・メータ